

IPv6普及・高度化推進協議会

慶應義塾大学村井純教授を会長に平成12年10月に設立。平成13年1月施行のIT基本法による「e-Japan重点計画」に明記された、すべての国民がIPv6インターネットをできるようにするとの目的を実現するために、産官学の力を広く結集し最大限の貢献を果たすべく活動しています。会員数法人105社・個人85名(平成21年6月1日現在)、事務局は株式会社イーサイドおよび、その支援として株式会社三菱総合研究所。

会長メッセージ

1989年に我が国のインターネットがグローバルに接続され20年が経過しました。インターネットの未来を語る時に「いつでも、誰でも、どこでも」といわれつづけ、今では、これに「何でも」を加えた技術基盤となりました。そこへ「何のためにも」という真の社会基盤性が加わり、インターネットの使命と責任はますます大きくなりました。多様な基礎技術と新しいデバイスが発展し、柔軟な先端応用が高度に推進されることが我が国の大きな特徴です。このような我が国からグローバル情報社会の創造に貢献すること、それが、IPv6普及・高度化推進協議会の重要な役割でもあり誇りでもあるのです。

会長 村井 純
慶應義塾大学 環境情報学部 教授

理事会

- | | | | |
|---------------------------|------------------|----------------|-------------|
| ■ 株式会社イーサイド | ■ シスコシステムズ合同会社 | ■ パナソニック電工株式会社 | ■ マカフィー株式会社 |
| ■ 株式会社インターネットイニシアティブ | ■ ソフトバンクテレコム株式会社 | ■ 株式会社日立製作所 | ■ 株式会社コビテック |
| ■ 株式会社インテック・ネットコア | ■ 日本電気株式会社 | ■ 富士通株式会社 | ■ 横河電機株式会社 |
| ■ エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 | ■ ニフティ株式会社 | ■ フリービット株式会社 | |
| ■ KDDI株式会社 | ■ パナソニック株式会社 | ■ マイクロソフト株式会社 | |

18社(平成21年6月1日現在)

法人会員

- | | | | | |
|-----------------------|------------------------|----------------------|-----------------------------|-------------------------|
| ■ アイテック阪急阪神株式会社 | ■ 株式会社NTTPCコミュニケーションズ | ■ 株式会社シーキューソフト | ■ 株式会社電算 | ■ 富士通テレコムネットワークス株式会社 |
| ■ アクセリア株式会社 | ■ エルミック・ウェコム株式会社 | ■ シヤープ株式会社 | ■ 株式会社電通国際情報サービス | ■ フュージョン・コミュニケーションズ株式会社 |
| ■ 株式会社アゴラ・ステーション | ■ 沖電気工業株式会社 | ■ ジュニアネットワークス株式会社 | ■ 株式会社東芝 | ■ ブラザー工業株式会社 |
| ■ 朝日放送株式会社 | ■ 関西マルチメディアサービス株式会社 | ■ セイコーフレイション株式会社 | ■ 株式会社新潟通信サービス | ■ フラネックスコミュニケーションズ株式会社 |
| ■ アラクサラネットワークス株式会社 | ■ キヤノン株式会社 | ■ 株式会社創夢 | ■ 西日本電信電話株式会社 | ■ 株式会社ミスボ |
| ■ 株式会社アルファシステムズ | ■ 株式会社倉敷ケーブルテレビ | ■ ソニー株式会社 | ■ 西日本旅客鉄道株式会社 | ■ 三井情報株式会社 |
| ■ イー・アクセス株式会社 | ■ 株式会社グラム | ■ ソネットエンタテインメント株式会社 | ■ 社団法人日本ケーブルテレビ連盟 | ■ 株式会社三菱総合研究所 |
| ■ 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 | ■ 株式会社クララオンライン | ■ ソフトバンクBB株式会社 | ■ 日本情報通信株式会社 | ■ 三菱電機情報ネットワーク株式会社 |
| ■ 株式会社インターネット戦略研究所 | ■ グローバルナレッジネットワーク株式会社 | ■ 株式会社ソフトフロント | ■ 社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター | ■ メディアアクセスチェンジ株式会社 |
| ■ インターネットマルチメディア株式会社 | ■ 株式会社ケイ・オブティコム | ■ 知多メディアネットワーク株式会社 | ■ 日本電信電話株式会社 | ■ 安川情報システム株式会社 |
| ■ 株式会社インテックシステム研究所 | ■ KVH株式会社 | ■ 中央電子株式会社 | ■ 株式会社ネットフォレスト | ■ 株式会社山武 ビルシステムカンパニー |
| ■ インテル株式会社 | ■ コニカミタビジネステクノロジー株式会社 | ■ 株式会社つうけんアドバンスシステムズ | ■ ネットワンシステムズ株式会社 | ■ ヤマハ株式会社 |
| ■ 株式会社インプレスR&D | ■ サイレックス・テクノロジー株式会社 | ■ 株式会社ティアイティ | ■ 株式会社野村総合研究所 | ■ 株式会社UCOM |
| ■ 株式会社エッチ・アイ・シー | ■ さくらインターネット株式会社 | ■ TOA株式会社 | ■ パナソニック コミュニケーションズ株式会社 | ■ コニアデックス株式会社 |
| ■ NTTアドバンステクノロジー株式会社 | ■ サン・マイクロシステムズ株式会社 | ■ 株式会社TCP | ■ 株式会社パワープレイ | ■ 株式会社リコー |
| ■ 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー | ■ 三洋電機株式会社 | ■ ディーリングジャパン株式会社 | ■ 東日本電信電話株式会社 | |
| ■ エヌ・ティ・ティスマートコネク株式会社 | ■ GMOホスティング&セキュリティ株式会社 | ■ 株式会社テレビ朝日 | ■ 富士ゼロックス株式会社 | |
| ■ エヌ・ティ・ティソフトウェア株式会社 | ■ CMPテクノロジージャパン株式会社 | ■ 財団法人 電気通信端末機器審査協会 | ■ 富士通LSIソリューション株式会社 | |

87社(平成21年6月1日現在)

後援会員

- 財団法人インターネット協会 ■ 情報通信ネットワーク産業協会 ■ 日本医療情報ネットワーク協会 ■ 社団法人日本インターネットプロバイダー協会

入会のご案内

IPv6普及・高度化推進協議会では、具体的なテーマを採り上げた様々なWGを開催しているほか、国内外のイベントや会議にも参加しております。協議会に入会いただき、これらの活動にご参加いただけますと、国内外のIPv6関係者(企業、学術研究者、政府関係者等)との交流を通じ、様々なビジネス開発の機会に接していただけます。また貴社のIPv6に関する活動を国内外に広くご紹介する機会を享受いただけるものと考えております。お申し込みは下記URLをご覧ください。

<http://www.v6pc.jp/jp/council/apply.phtml>

会費 (消費税課税対象外)

理事会員：50万円
法人会員：10万円
個人会員：無料
後援会員：無料

※会計年度
4月1日～
翌年3月末日
(平成21年6月1日現在)

GALLERIA v6

5坪ほどの小さなスペースですが、事務局内にショールームを設置しております。協議会の今までの活動の歴史や、関連書籍をはじめIPv6関連製品などを展示してまいります。是非お立ち寄りください。

■ 営業時間
11:00～17:00(土・日・祝・年末年始はお休み)

※説明員は常駐していません。
説明をご希望の方は事前に事務局までお問い合わせ願います。



IPv6 Promotion Council

IPv6普及・高度化推進協議会

IPv6 Promotion Council

<http://www.v6pc.jp/>

IPv6普及・高度化推進協議会は
IPv6の普及のための活動を行う民間組織です

IPv6普及・高度化推進協議会 事務局

住所：〒107-0052 東京都港区赤坂2-18-14 赤坂STビル2階 株式会社イーサイド内
Tel：03-3585-8161 Fax：03-3585-8162
e-mail：v6info@v6pc.jp <http://www.v6pc.jp/>

サーティフィケーション WG Certification WG

IPv6機器の仕様適合性、相互接続性を検証するためのテスト仕様やテストプログラムを開発している。IPv6機器の国際的検証プログラムであるIPv6 Ready Logo Programには、その発足当時から深く関与し、テスト仕様の提供や実際の審査作業も行うなど、国際的に中心的な役割を担っている。平成20年より財団法人電気通信端末機器審査協会(JATE)のIPv6認証タスクフォースとの共催WGとなり、官民の協力体制をより深いものとしつつある。

This WG has focused on developing conformance and interoperability test specifications for IPv6 appliances. The WG has been heavily involved in the IPv6 Ready Logo Program since its outset and is the main force behind providing test specifications and resources for evaluation of Logo Program applicants. The WG combined resources with the IPv6 Certification Task Force of the Japan Approvals Institute for Telecommunications Equipment (JATE) this year, creating a strong industry/government collaboration base in the IPv6 testing and conformance field.

FMC v6 プラットフォーム WG FMC v6 Platform WG

通信業界の大きな流れであるFMC (Fixed Mobile Convergence、固定網と移動網の収束)の進展に加え、今後は更にIPv6プラットフォームへの移行という動向が重なることが想定される。このような状況を踏まえ、FMCv6プラットフォームのありかたとその上での新しいアプリケーションやサービス等について検討する。特に携帯端末へのIPv6導入促進、固定網と携帯網との連携やPCと携帯端末との連携等の技術的アプローチを視野に入れた検討を行い、実証実験等への展開を図る。

The advancement of FMC (Fixed Mobile Convergence), a major trend in today's ICT business, is expected to merge with a move toward an IPv6 platform in the future. The FMCv6 WG aims to propose an outline for an FMCv6 platform, and identify potential new services and applications for the platform. In particular, we focus on technical issues and trials regarding the adoption of IPv6 to mobile devices and the convergence of fixed and mobile networks.

デジタル情報家電v6プラットフォーム WG Digital Information Appliance v6 Platform WG

IPTVやデジタルテレビにおけるIPv6プラットフォーム、およびホームネットワークにおけるさまざまなプロトコル (ECHONET、DLNA、ZigBee、各社独自プロトコルなど)の相互接続手法を検討する。具体的には、マルチベンダによるネットワーク構築や相互制御による省エネ環境を実現可能とするために、データ計測・伝送・蓄積・分析方法の参照仕様の確立を目指す。さらにグリーン東大工学部プロジェクトと連携し、ホームネットワークとビル設備管理ネットワークとの連携も検討する。

This WG aims to examine an IPv6 platform for IPTV and Digital TV as well as the interoperability of various protocols (ECHONET, DLNA, ZigBee, and vendor original protocols) within the home network. The WG intends to establish reference specifications for data measurement, transmission, accumulation and analysis methods for mutual control and management of a multi-vendor network and energy saving environment. The WG is also cooperating with the "Green University of Tokyo Project."

セキュリティ WG Security WG

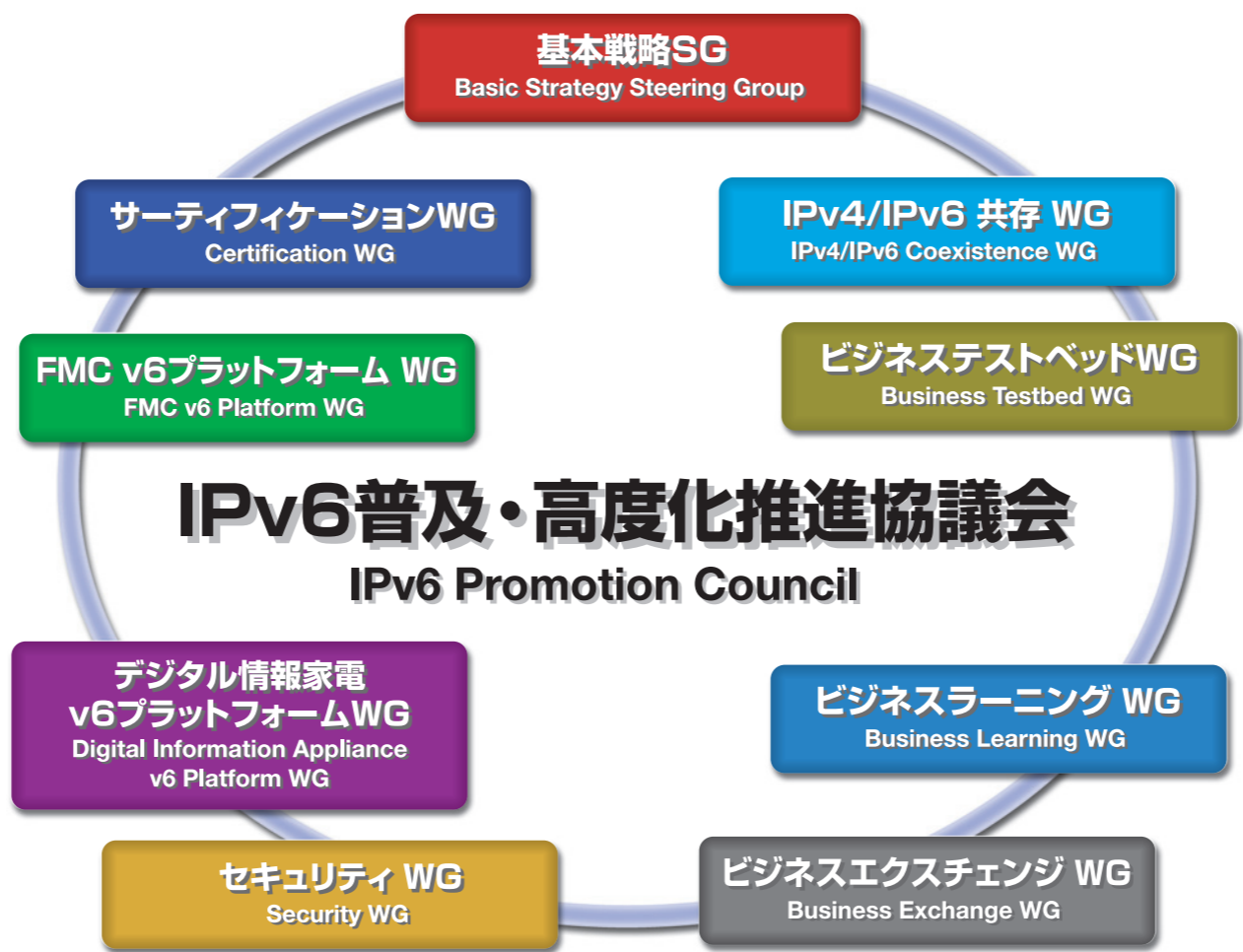
端末OSがすでにIPv6対応を終えてインターネット上に接続され始めており、ネットワーク機器の対応が遅れると、IPv6トラフィックそのものが脅威となる場合も指摘されている。しばらくの間は、デュアルスタック環境となるため、セキュリティに関する検討課題は重層化せざるを得ない。ブロードバンドルーター内のホームLANを始めとして、企業LAN、ASP、電子政府等の主要な利用シーンにおけるセキュリティモデルとその対応策について、ネットワークレベルでの研究を行っていく。

IPv6-ready end user terminals have already begun to connect to the Internet. A delay in the deployment of IPv6 capable network equipment may lead IPv6 traffic itself becoming a threat. This WG assumes the existence of a dual stack environment and identifies the importance of security within that environment while looking at security models at the network level in the main use scenarios such as home network, corporate LAN, ASP, and e-government.

基本戦略 SG Basic Strategy Steering Group

IPv6に関する内外動向の幅広い調査分析に基づいて骨格的な戦略を策定するとともに、各WGや協議会会員によるアクションのフォローを行っている。特に、海外、国内を問わず、関係機関との協議や調整を積極的に行い、効果的な各種パブリシティの展開、WEBの運営、コンベンション活動について、会員の多大なる貢献を得ながら実行している。2008年度からは、政府の「インターネットの円滑なIPv6移行に関する調査研究会」による検討成果から行動計画を策定し、テレコム・インターネット業界と協力しながら、IPv4枯渇とIPv6移行に関する具体的な取組を開始した。インターネット上での経済活動が拡大する中で、IPv6が果たすべき新たな役割をも再確認し、新世代の社会基盤形成とその発展に資する事を目指す。

The Steering Group devises basic strategy based on a broad analysis of global and domestic trends related to IPv6, and supports the activities of each of the Council Working Groups and members. The SG is aggressively involved in liaison activities with related organizations within Japan and abroad, and continues to support the Council membership base with a variety of publicity, promotion, web-based information sourcing, and conference activities. In the fiscal year 2008, we began concrete programs concerning the exhaustion of IPv4 Address Space and IPv6 Transition in conjunction with the major domestic telecom industry bodies.



協議会関連組織動向 The conference related organization trend

・IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース IPv4 Address Exhaustion Task Force

数年後にも迫ったIPv4アドレス枯渇に対応するため、総務省と16のテレコム業界団体が共同して対応を目指している。

The Task Force consists of MIC and 16 telecom organizations collaborating toward identifying measures to combat the upcoming exhaustion of IPv4 address space.

・グリーン東大工学部プロジェクト Green University of Tokyo Project

ICTを活用した知/智的環境構築を研究し、東大工学部新2号館をフィールドに環境情報化の実証モデル構築を目指す。

This project aims to study the creation of an environmental information model with field testing on a new Engineering Faculty building on the campus of the University of Tokyo.

・センサネットワーク (LiveE!プロジェクト) Sensor Network (Live E! Project)

地球上の各拠点に気象観測ユニットをネットワーク上に展開し、収集したデータを分析して新しいサービスを検討する。

The Live-E! Project is establishing a networked group of widely dispersed weather observation units with the goal of collecting and analyzing data and developing new services.



IPv4/ IPv6 共存 WG IPv4/IPv6 Coexistence WG

IPv4アドレス枯渇等に伴うIPv6への移行に当たっては、既存のIPv4ネットワークとの共存期間を経ることになる。その際、共存期間中はIPv6、IPv4双方のクライアントから、IPv6、IPv4双方で提供されているサービスを受けることができるようにする必要がある。本WGでは、ISP事業者とASP事業者が、円滑にIPv6へと移行していく際の課題の抽出及び解決策の検討を行う。

As the exhaustion of IPv4 address space leads to a shift to IPv6, we will enter a period of coexistence of IPv6 with an existing IPv4 network. This period will demand the supply of both IPv6 and IPv4 service to both IPv6 and IPv4 clients. This WG aims to examine issues and solutions for the smooth transition of ISPs and ASPs to IPv6.

ビジネステストベッド WG Business Testbed WG

IPv6への移行のために、IPv6環境の構築や運用に対する経験不足を解消し、また残された技術的課題の検証とその解決を行うために、実運用ネットワークに近い環境で様々な検証、実証を行えるIPv6テストベッドネットワークを構築することを目指している。その上で、IPv6に対応したネットワークオペレータの全国規模での教育/養成、ミドルウェアやアプリケーションの動作実証等を行っていく体制、環境、方策等について検討をし、実際に行うことを目指す。

This WG aims to create a nationwide IPv6 testbed network, providing a real network platform on which operators can experience operation of an IPv6 network. The testbed network will serve as a training platform for network operators across the country offer an environment for verifying and testing IPv6 middleware and business applications.

ビジネスラーニング WG Business Learning WG

既に多くのビジネス活動を支えるインターネットが、IPv6によって高度化するタイミングが到来しており、実践的なネットワークエンジニアの養成が急務となっている。このWGでは、ビジネスレベルで必要とされる人材育成用カリキュラムの開発と実施を担いつつ、IPv6時代のネットワークインテグレーションに係る知識を体系化し公表して行く。さらに、関係する民間のラーニングカリキュラムの相互連携を図り、新たな公的資格の創設を目指す。

With the Internet already supporting the majority of common business activities, and the impending upgrade to IPv6 before us, the training of practicing network engineers is seen as a pressing need. This WG examines the development and execution of a training curriculum required at the business level, aiming to systemize and publicize the knowledge applied to networking integration in the IPv6 age. In addition, we aim to establish a new official qualification by attempting mutual cooperation with private learning curriculum.

ビジネスエクスチェンジ WG Business Exchange WG

IPv4アドレス枯渇の事実の周知とともに、その対策のための行動計画やノウハウの共有、今まで以上に幅広い層への周知と啓発の重要性が増している。このため、従来の協議会主催イベントであるGlobal IP Business Exchangeの一層の活用とともに、IPv4アドレス枯渇対応タスクフォースと連携したイベントの実施、各種IT系イベントを通じての啓発活動を促進し、他のWGとも連携したIPv6ソリューション/プロダクトに関するビジネス交流促進を目指す。

As we move closer to IPv4 address exhaustion, the open sharing of action plans and knowhow on the subject becomes increasingly important not only within the networking community but across a wide variety of industry levels and sectors. This WG intends to expand the scope of the existing Global IP Business Exchange, opening the event to cooperation with the IPv4 Address Exhaustion Task Force, and offering content to a variety of related IT events.